

リニア中央新幹線のターミナルとなる名古屋駅および周辺は整備計画が着々と進んでいる状況にある。

当面は名古屋駅が大阪方面への新幹線の乗り換え地点となり、関西の玄関口にもなる。また、名古屋駅で二次交通の在来線や私鉄に乗り換えることで、三重県や岐阜県などに点在する各所を訪れることもできる。

通常、主たる移動手段よりも乗り換え後の二次交通の移動時間の方が短いのが一般的であるが、リニアを

移動手段を加え、拠点性を高める必要があると考える。

利用する場合、その卓越したスピードゆえに、名古屋駅を降りると、そこから最終目的地までの移動時間のほうが長くなってしまおうという現象が生じうる。

また現在、自動運転と並び開発でしを削っている

近頃は空港から高級リゾートへ直接ヘリで向かうという客もいると聞く。富裕層向けのサービスが既にローンチされているのである。

また現在、自動運転と並び開発でしを削っている

名古屋の拠点性を高める

リニアでブレない地域へ(4)

よって、名古屋駅が選ばれる駅となるためには、複数の交通を連携させるマルチモーダル化により、ストレスのない乗り換え実現と

空クルの多くは電動垂直離着陸機と呼ばれる電動の乗り物であり、1人乗りから4人以上まで種類もさまざまであり、飛行速度や航

宮田 将門(みやた まさと) 政策研究事業本部研究開発第2部(名古屋) 主任研究員



愛知県内の山間部であっても名古屋市からは約50キロ、車で2〜3時間の距離にあるが、空クルを使えば、これがわずか20分程度で到着できることになる。品川からの場合、これでやっと乗車時間はリニアよりも空クルの方が短くなり、劇的な時間短縮が達成される。

後求められるのは空クルの離発着ポートと急速充電施設の整備である。これにより、真のマルチモーダル化を遂げることとなるだろう。また付随し、新しいビジネスチャンスやビジネスモデルも生まれることとなるだろう。リニア時代は時間短縮の仕方も移動手段によって相当変わる未来でもある。新幹線と在来線の旅もまた良いものであるが、速達性を極めることもできる。

るのが、「空飛ぶクルマ」(空クル)である。空クルの多くは電動垂直離着陸機と呼ばれる電動の乗り物であり、1人乗りから4人以上まで種類もさまざまであり、飛行速度や航

ここで、速達性が高いという共通項をもつリニアと空クルのコンビネーションを考えてみよう。例えば

空クルがタクシーのごとく都市内外を飛び回る時代はもう少し先かも知れないが、案外リニアが開通するタイミングに近い可能性もある。そうすると、名古屋駅および周辺はリニアを主に役に進化していく中で、今

この4回の連載に登場した街や駅周辺がさまざまな要素を組み合わせ、地域らしい個性を伸ばすことについて、来たるリニア時代を見据え考える時期にある。(毎週木曜日に掲載)

